

平成26年度 第2回学校評議員会報告「提言等のまとめ」

岩手県立盛岡工業高等学校

1 期 日 平成27年2月19日(木) 10:00~11:30

2 場 所 本校 校長室

3 出席者

評議員 伊藤 隆 (盛岡市立飯岡中学校 校長)
小川 久太郎 (体育後援会 会長)
千田 展久 (横河電子機器株式会社盛岡事業所 製造部長)
八重樫 典彦 (岩手県立産業技術短期大学校 副校長)
*欠席: 佐藤 香紀 (学校薬剤師)

学校側 藤原 斉 (校長)
岩渕 健一 (全日制副校長)
佐々木 光男 (全日制副校長)
浅沼 孝夫 (定時制副校長)
津田 敏 (事務長)

4 説明内容並びに質疑応答・提言等

(1) 活動報告(全日制:岩渕副校長・定時制:浅沼副校長)

* 各副校長から、出席率・入学志願状況の推移・3年生の進路決定状況・資格取得状況・復興教育の取り組み状況・PTA活動状況などについて、報告された。

(2) 「学校評価」「授業評価」の集計結果について(岩渕副校長)

* 学校評価については、今回提示した集計結果を説明するとともに、今年度中に来年度に向けた改善事項・具体的な取り組み・自由記述への回答などを加えた報告書を作成し、学校ホームページへの掲載・PTA総会での説明を行うことなどが、報告された。

【 質疑応答 】 学校評議員からの質問並びに提言

(1) 「学習指導に関して」

ア 現在の製造業のビジネスモデルは男性中心に考えられているが、女性の視点で見直すと新たな可能性も見えてくるように思われる。そのようなことも踏まえて、女性の活躍に向けて、工業高校における女子生徒の指導のありかたを検討してほしい。

*回答:ものづくりコンテスト全国大会などでも、種目によっては女子が多く勝ち進んでいる様子が見られる。そのようなことも励みにして指導していきたい。

イ 就職後にも、技能を高めたり自己啓発を進めたりするために職場で資格取得を求めることがあるが、現実的にネックとなるのは学校で身につけておくべき基礎学力である。その点も含めて学習指導に力を入れてほしい。

*回答:ぜひ、心がけたい。

ウ 学校評価の自由記述にある「実習やものづくりの授業を増やしてほしい」という声を活かしてほしい。また、日本の優れた職人の姿には学ぶべきところがある。授業のありかたとして、実習のおもしろさを教えてほしい。

*回答:学校としても実習については大切に考えているところであるが、今後もよりよい形にしていきたい。

(2) 「進路指導に関して」

エ 今年度の求人数について、県内・県外、学科別での変化やバラツキ・特徴などは見られたか。

*回答:県外(首都圏)からの求人は昨年以上に活発であった。県内の求人は多少の増加傾向は見られたが、統一選考日以降の求人に関しては出足が鈍く、2回目以降の出願においては、生徒が希望する事業所からの求人があるのかが分からず苦慮したケースもあった。このことは、機会を捉えて職安などに改善を要望している。学科毎の求人数のバラツキは特に報告されていない。

オ 受け入れ側という立場からすると、就職希望の生徒に関する高校からの情報に疑問があるケースが見られる。現実的にはどのようなになっているものなのか知りたい。

*回答：本校においても様々な個性を持った生徒が在籍している。特に配慮が必要な生徒に関しては、その実情を踏まえて、事前に事業所に十分な説明をして、実習期間を設けたりするなどして、できるだけミスマッチがないように進めているところである。

(3) 「生徒指導に関して」

カ 基礎学力も大切であるが、積極性と協調性があれば社会に適応できる場合が多く、長く同じ職場で働くことにもつながる。全てを要求するのではなく、生徒が持つ個性を生かしながら指導するという形があってもよいと思う。

(4) 「教育活動全般について」

キ 学校評価への取り組みを含めて、『入学してよかった』と生徒が思える学校にしていく、という学校全体の思いが伝わり、よいことだと思った。日頃、ものづくりをする人が主役になる世の中になってほしいと考えているが、本校はそれを支えてくれていると感じている。

ク 資格取得に関する優れた成果をもっと積極的にPRしてほしい。学校の特徴付けにもなり、中学生の進路選択の参考にもなると思われる。

(5) 「その他」

ケ 学校評価で学校設備の老朽化、特にトイレのことが指摘されているが、どのような実態か。

*回答：順次、改修をしているが、校舎の設計そのものが古いこともあり、そのような指摘がなされていると思われる。女子トイレについては、実習棟などを含めると全体の広さに対しては少なく、不便な面があるかもしれない。

5 校長から

本日は貴重な提言を頂戴し、ありがとうございます。

最近、本校に入学してくる生徒の目的意識の変化を感じている。以前は、何かを作りたい、何かをしたいという思いや目的を持って入学する生徒が多かったが、今は、ものづくりの楽しさを教えるところから始める必要性を感じている。資格取得については、本校における学習の集大成の一つとして大切であると考えている。

また様々な理由で、学校評価で指摘されているとおり、「つくる」という面が少なくなっているように感じられる。今後は、「自分たちで考え、失敗や試行錯誤をしながら一つのものを作り上げていく」という体験を、一層大切にしていきたい。

本日皆さんからいただいたご意見を活かし、本校が少しずつでも前進していけるよう努めていきたいと思っております。